



「夢と希望」があふれる年に

岡谷市長 今井 竜五

新年おめでとうございます。

市民の皆様には、清々しい新春をお迎えのこととお慶びを申し上げます。

昨年、岡谷市を顧みますと、市内の中小企業が行った設備投資にかかる固定資産税を3年間ゼロとするための体制整備、「岡谷子ども未来塾」や「おかやコドモテラス」の開催を通じた子育て・教育環境への支援、本年4月に開所予定の「岡谷市成年後見支援センター」設置準備など、第4次岡谷市総合計画 後期基本計画の重点プロジェクトとして掲げました「たくましい産業の創造」、「輝く子どもの育成」、「安全・安心の伸展」の3項目を中心に、多くの新規・継続事業が実を結び形になりました。これは、関係された全ての皆様のご理解とご尽力の賜物であり、深く感謝を申し上げます。

岡谷市にとりまして、落ち着いた歩みのできた一年でありました。

国では、少子高齢化という我が国最大のピンチもチャンスに変えることができるとし、未来を担う子どもたち、子育て世代への重点的な投資のほか、女性活躍の推進や、元気で意欲あふれる高齢者の経験や知恵を活かすことにより、日本はまだまだ成長することができる、人生100年時代の到来は大きなチャンスと位置づけております。

女性も男性も、若者も高齢者も、障がいや難病のある方も、誰もがその能力を存分に発揮できる一億総活躍社会、生涯現役社会を目指すとしております。

このような状況のなか、本年の岡谷市におきましては、3月までは、第4次岡谷市総合計画を総括し計画の実現に努めるとともに、岡谷市のまちづくりの新たな指針となる第5

次岡谷市総合計画につなぐ重要な期間となります。

そして、4月から始まる新年度は、第5次岡谷市総合計画の初年度として、新たな10年間はスタートする年であり、将来都市像であります「人結び 夢と希望を紡ぐたくましいまち岡谷」の実現に向けて、力強い第一歩を踏み出す年であります。

重点項目を「子育て・教育環境の充実」、「暮らしを支える生活基盤の整備」、「力強い産業の確立」の3項目とし、各種事業を積極的に展開してまいります。

「市民誰もが安全で安心して、健康で生きがいを持って暮らすことができ、このまちに住み、働くことに誇りと自信、そして、愛着を持てるまちづくり」を進めるとともに、時代の流れとそれに伴う課題に適切に対応しながら「将来にわたって持続可能で、将来のまちに多くの夢と希望を描くことができる確かなまちづくり」に努めてまいります。

市民の皆様には「岡谷市のまちづくり」に積極的なご参加をいただくとともに、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

迎えました平成31年が、岡谷市が飛躍・発展する年となりますこと、また、安全・安心で平穏な年となり、市民の皆様にとりまして、ご健康で活躍され「夢と希望」があふれる年となりますよう心からお祈り申し上げます、新年のあいさついたします。

平成31年 元旦

特集

岡谷の「ひと・もの・こと・こころ」と学ぶ！ 岡谷スタンダードカリキュラム



ごみについての学習

豊かな自然、製糸、産業、御柱…岡谷の「ひと・もの・こと・こころ」と学ぶ、という「岡谷スタンダードカリキュラム」は、いわゆる「郷土学習」とはちょっと違うんです。子どもたち、先生たち、地域の人たちがお互い学び合い影響し合って、成長していくくみで、平成28年度から小・中学校で実施されています。そんなカリキュラムを知り、実際の授業のようすも見てみましょう！



養蚕についての学習

竹内さん、岡谷スタンダードカリキュラムについて教えてください！

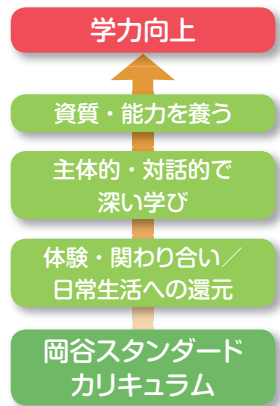


竹内 良之さん
岡谷市教育委員会
主任指導主事
中心になって「岡谷スタンダードカリキュラム」を考案

Q 「岡谷スタンダードカリキュラム」とはどんなものですか？

岡谷には学習の素材となる地域資源が豊富にあります。そんな、岡谷ならではの学習要素を取り入れていく学習カリキュラムが、「岡谷スタンダードカリキュラム」です。

昨今、学力観が変化しつつあります。これまでの「教えられたことを身につける」という受け身の学習から、これからは、「みずから学ぶなかで培われる資質・能力を養っていく学習」にしよう、というものです。その資質・能力を高めるためには、主体的・対話的で深い学びが有効です。そのような学びの実現をめざして本カリキュラムは生まれました。カリキュラムの実践で、子どもたちは何かを体験したり、人に会ったりします。さまざまな人やこと・ものと関わって考えが深まり、子どもたちが主体的に学んでいくようになることがねら



いのです。

このカリキュラムは「学習内容」であるとともに「学習のしくみ」なので、授業数を増やさずにいろいろな授業に活用でき、テーマや取り組み方も自由に設定できます。

Q カリキュラムが始まった背景は？

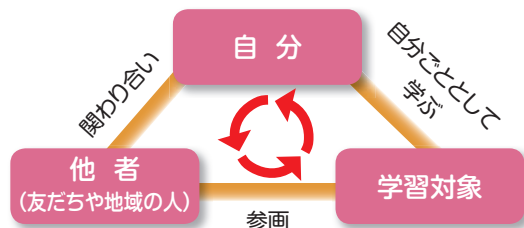
背景には、岡谷小・田中小・神明小の学校統合もあります。この統合が地域を改めて見つめ直す機会になり、岡谷にはすばらしい「ひと・もの・こと・こころ」がある、ということがわかりました。

また、社会的には人口減少が課題となっています。子どもたちが郷土に愛着を感じ、故郷に帰ってきて活躍できる土台をつくるようなカリキュラムでもあります。

Q 従来の郷土学習と違う点は？

従来の郷土学習は、対象を「学ぶ」というものでしたが、このカ

リキュラムでは、対象に「学ぶ」、さらには岡谷の「ひと・もの・こと・こころ」と「学びます。自分・他者・学習対象が、相互に影響し合うことで、学習対象を単なる事物ではなく「自分ごと」にしています。



●●●●● 「こころ」と向き合う ●●●●●
「もし自分だったら500かな？」
「友だちはどう考えてるかな？」
「教えてくれている地域の人にはどんな思いを持ってる？」
「この時代の人はどう感じてたのかな？」

Q 先生たちや地域のみなさんにとつての、このカリキュラムの意味とは？

先生たちが「教える」だけでなく「学ぶ」専門家になり、子どもとともに学び続けていく環境づくりを助けるものです。また、地域のみなさんにも、教えることや子どもたちと一緒に過ごすことを、ご自身の学びにつなげていただく…これらの関係性を「学びの互恵性」と呼んでいます。

実際の学習はどうやっているの？

岡谷田中小学校4年2組での授業を例に、「岡谷スタンダードカリキュラム」を活用した授業のようすを見ていきましょう。機械づくりやロボットを動かすプログラミングを体験しながら、岡谷のものづくりの先進性にふれる学習です。今回の授業はチームティーチング（複数の先生でチームを組んで教えること）で行われ、ロボットを扱う企業など、さまざまな人も関わっています。



金澤 奏和さん

Q 今日の授業はどうでしたか？

岡谷の精密加工の技術のすごさに、改めて驚かされました。

Q これからやってみたいことはありますか？

機会があったら自分でもプログラミングをやってみたいと思いました。



宮坂 瑠星さん

Q 今日の授業はどうでしたか？

改めて、機械のすごさがわかりました。



1

「たわしロボ」を作って、機械のしくみを知ろう！

多脚ロボット「カニロボちゃん」がパソコンから送られた指示で動き、みんなびっくり。ロボットが動くしくみをもっと簡単な「たわしロボ」を各自作りながら学びます。電動の機械の要素「動力：モーター」「電力：電池」「胴体：たわし」を理解して、組み立て。グルグル小回りする「たわしロボ」、まるで小動物みたい？



2

金属を曲げて「岡谷のものづくり」を知ろう

次に「カニロボちゃん」の胴体に注目！「硬い金属をどうやって曲げているの？」先生が1枚ずつ薄い金属板を配り、みんなで「万力」という道具まんりきを使って曲げてみます。映像を交えて、岡谷にはこのような「金属加工」の工場が多く、すぐれた技術を持っていることも紹介されました。



3

プログラミングで「カニロボちゃん」に指示を出そう

いよいよプログラミングの授業。班に分かれて、それぞれの「カニロボちゃん」にパソコンから指示を出します。子ども用のソフトを使うので、かんたんに楽しくプログラミングを体験できます。カニロボちゃんの動きに興味シンシン。



鍋島 克文さん

アトラス株式会社
IT推進事業部 ITコンサルタント

アトラス株式会社は岡谷市内で創業。装置組立、機械設計、システム設計などがおもな事業。山梨県北杜市に移転した現在も、岡谷市のものでづくり教育に携わる。この授業ではロボットやパソコンのセットアップ（動かすための準備）、エラーが出たときのフォローなどを担当。

Q 今日の授業はどうでしたか？

「子どもたちの目が本当に輝いているな」「こんなに喜んでもらえるんだ」と感じて、経験してみないとこういうことはわからないな、と思いました。

Q どんな思いで授業に関わっていますか？

この「カニロボちゃん」とプログラミングソフトは、未来の企業人である子どもたちに、ものづくりの楽しさを知ってもらいたい…と当社で開発したものです。まずは入り口として、興味を持って体験してもらおうというのが、すごく良い機会だと思っています。



岡谷田中小×南中

今回は、このカリキュラムでも初めての試みとして、中学校の先生がチームティーチングの一員に！宮澤先生がいる岡谷南部中は岡谷田中小の学校区にあり、小学校-中学校の連携が実現。

神明小×岡工

神明小学校で行われたプログラミングの授業では、学校区内にある岡谷工業高校の生徒たちが、アシスタントティーチャーを務めました。ここでは小学校-高校の連携が実現。

より複雑なプログラミングで「カニロボちゃん」の動きを組み合わせよう

「前進」+「コケる」…など、2つの動きを組み合わせるプログラミング。自分たちで先に進み、3つ、4つ…と、どんどん動きを組み合わせる班も出てきて、宮澤先生が「繰り返し」という新しいワザを伝授！

4

子どもたち



Q どんなところがいちばんおもしろかったですか？
プログラミングをやったとき、パソコンからの指示でロボットが動いたのがおもしろかったです。

学びの互恵性

「子どもたち」「先生たち」「地域の人たち」の三者が、お互い学ぶことの楽しさを受け取りながら、成長していくくみ。

先生たち



地域の人たち



(区、団体、企業など)

Q 今日のような授業で先生自身

が感じることは？



宮澤 清悟先生
岡谷南部中学校 技術科

中学でもプログラミングや情報関係の授業がありますし、将来に活かせる部分が多い授業だったんじゃないかなと、やっていて思いました。ロボットなど、ものをさわむ五感を使って授業をしていくというのも、とてもおもしろい部分だと思えます。実際に自分でやってみるといのが小学生はとくに楽しめると思いますし、中学の授業でも、生徒自身が体験するという面を取り入れていきたいですね。

Q 子どもたちのようすはどうでしたか？



山崎みのり先生
4年2組担任

好奇心がすごくあって、興味を持って楽しそうにやりましたね。岡谷は、こういうことが得意なんだ、おもしろい産業なんだ、ということが身をもって感じられたと思います。

Q 今日のような授業で先生自身

が感じることは？

専門家などが入ってくださることによって、実物にふれたり実際に体験したりできるので、子どもたちにとって良い経験になると感じています。



YouTubeで見よう！

シルキーチャンネルで放送した、岡谷スタンダードカリキュラムの番組が見られます。



前編

後編

問合せ ● 教育総務課(内線1213)